

令和5年度 道徳教育地域支援事業における事業内容

学校名[山形県新庄市立新庄中学校]

【研究の要約】

学校研究のテーマは「進んで関わり、互いに高め合う生徒の育成」である。道徳教育では、特別活動と関連を図りながら、学校生活全体を通じて道徳性の向上と実践力を育成する。ユネスコスクールやカーボンニュートラル大使など特色ある活動を行い、一人一人かけがえのない人間としての成長を遂げるため、生徒同士、地域や様々な方との関わりを通して、励まし合い、高めていこうとする生徒を育てていく。

さらに、道徳科の充実を図りながら、人権を尊重し、持続可能な社会の実現を目指そうとする生徒を育成、生徒の居場所づくりや絆づくりを推進する。いじめや不登校の未然防止に努め、人間関係等の生徒の不安を取り除き、充実した学校生活になるようにしていく。

1 事業の内容（具体的な実践事例）

(1) 道徳教育に係る外部講師の派遣及び先進校視察による校内研修の充実

- ・十文字学園女子大学教授浅見哲也氏を講師に迎え、「児童生徒が自分と重ねて真剣に考える道徳科の授業構想と評価」のテーマで講演を実施した。
- ・校内授業研究会で道徳の授業公開を行った。複数教員で価値項目に迫るための発問を吟味し、教材研究を深めた。事後研は、授業者の意図どおりに価値項目に迫れたか、生徒の姿を通して振り返った。

(2) 家庭・地域との連携による道徳教育の充実

- ・学校運営協議会によるカリキュラムマネジメント実施への協力や地域学校運営協働活動の仕組みを生かしたボランティア活動を実施し、子どもの内面に根ざした道徳性の育成を目指した。

2 研究成果（○）と課題（●）

(1) 上記事業に関して

- 浅見教授の講義から、授業の在り方、校内体制作りについて理解を深めた。演習の中で、教材分析や発問を協議し、「考え、議論する道徳」の授業づくりについて具体的に理解を深めることができた。
- 最上地区の小・中学校等から多数の参加者もあり、地区内で道徳教育の充実、様々な意見交換を行うことができた。
- 全国道徳研究大会での研修成果を、校内及び地区道徳教育部会で伝達研修を行うことができた。特に、本校の実態に合う具体的な実践を取り入れ、道徳教育の充実を図ることにつながった。
- 道徳教育推進教師による「校内道徳通信」で、校内研修のまとめ、伝達や評価について情報を発信し、職員で共有を図ることができた。
- 学校運営協議会委員の紹介から、地域と関わる実践「大先輩に学ぶ」「地域の思い」「伝統への思い」などを地域人材と関わりながら学ぶ取り組みを行うことができた。学校運営協議会委員からも高評価を得た。

(2) 道徳授業に関するアンケート結果（一部抜粋）から

- 生徒アンケート「道徳の授業は好きだ」は、前期65%から後期73%と向上するなど、研修を通して、教職員の授業改善の意識が高まった。
- 教職員アンケート「道徳の授業を楽しんでいるか」で、前期、後期ともに67%と変化が見られなかった。様々研修を通して、道徳の奥の深さを実感し難しさを感じながら授業実践していると思われる。今後、教材研究の跡を教職員で共有できるようにしていく必要がある。

<参考資料>

【資料1】

(1) 生徒アンケートにおける肯定的な回答の割合

生徒アンケート質問項目	2月	10月
①道徳の授業は好きだ	73%	65%
②道徳の授業はためになると感じる	84%	77%
③道徳の授業では新たな気づきがあると感じる	77%	74%
④道徳の授業では発言せず黙ったまま1時間が過ぎることはない	79%	74%
⑤道徳の授業ではすでに分かっていることを聞かれていると感じない	48%	49%
⑥道徳の授業で自分の経験を振り返りながら考えている	81%	78%
⑦道徳の授業の中で自分がもし主人公ならと想像して考えている	65%	56%
⑧道徳の授業では人間としての自己の生き方について考えさせられることがある	82%	76%
⑨道徳の授業の前半で、自分自身の考えや感じ方を整理する時間がある	85%	79%
⑩道徳の授業の後半で、自分の考えがどう変化したかを考える時間がある	86%	80%

□ 大半の項目で、数値の向上がみられた。教員が地道に授業改善に取り組んだ成果ととらえることができる。さらに、質問⑤の数値を改善するためにも「生徒の考え、価値観」を揺さぶる教師のコーディネートが必要があることがわかる。

(2) 教師アンケートにおける肯定的な回答の割合

教師アンケート質問項目	2月	10月
①教師自身が道徳の授業を楽しんで実践しているか	67%	67%
②道徳的価値について、問題意識が持てるように導入を工夫しているか	92%	93%
③自分自身との関わりで考えられるように展開を考えているか	92%	87%
④多面的・多角的に考えられるようにするために展開を工夫しているか	67%	80%
⑤自己の生き方について考えを深められるように展開を工夫しているか	83%	87%
⑥自己実現への思いや願いを深められるように終末を工夫しているか	83%	73%
⑧おたより・通信等で、道徳の話題を取り上げ、保護者や地域に発信しているか	77%	82%

□ 質問④、⑤数値が下降している。授業づくりについて理解が深まった結果、「考え、議論する道徳」の実践の難しさを感じ、教材研究、授業展開、コーディネートの難しさを感じていると思われる。

【資料2】十文字学園女子大学浅見哲也教授「児童生徒が自分と重ねて真剣に考える道徳科の授業構想と評価」

□ 講演から、「今後の道徳の授業に対する意欲が高まった」と振り返りアンケート記載があった。特に、「価値理解」「人間理解」「他者理解」を通じた自分との関わりで捉えることのできる発問の仕方について学びを得た。講義後半の浅見先生の「子供たちのことを考えながら授業構想することを楽しみ、授業後の充実感や敗北感を味わうことを楽しむ。充実感は3割を目指して…」というお言葉に勇気を得た。

新庄中学校区小中一貫教育連絡協議会 第4回全員研修会

<講義・演習>
「児童生徒が自分と重ねて真剣に考える道徳科の授業構想と評価」

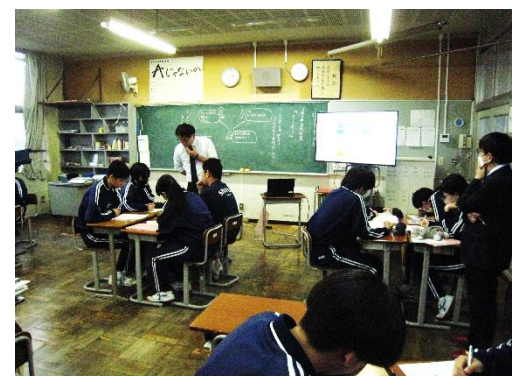
<講師プロフィール> **浅見 哲也 氏**
十文字学園女子大学教育人文学部児童教育学科教授

(略歴)
1967年埼玉県生まれ。1990年より、埼玉県公立小学校教諭、埼玉県教育委員会学校部生後指導指導主事、深谷市教育委員会学校教育課長補佐兼指導主事、深谷市立公立小学校教諭、小学校長兼幼稚園長、2017年より文部科学省中等初等教育局教育課程課調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官を経て、今年度より現職。「道徳科授業構想グランドデザイン」「幼稚園、小学校における新しい道徳教育、新道徳教育全書第3巻」「こだわりの道徳授業レシビ」など多数の著書を出している。

日時 令和5年7月31日(月) 13時30分～16時00分

【資料3】授業研究会の様子 教材名「二人の弟子」

□ 夏季の研修会、中央道徳研修会から、生徒の実態を考慮し、考えさせたいことや気づかせたいこと、具体的な発問構成について学んだことを生かし、指導の明確な意図をもち、授業研究会を行った。



【資料4】地域との関わりのあるボランティア活動



運営ボランティア



1年生有志企画「レモネードスタンド」



感謝の集い「餅配り」



SDGsブックドネーション 絵本の寄贈&読み聞かせ



- 学校運営協議会委員の協力をいただき、生徒主体の企画・運営の取り組みが行われた。活動の意図を明確に持ち、地域とどのように関わりを持つことができるか生徒主体に取り組むことができた。

【資料5】「いのちの日」の実践

- いのちのこと、社会全体が互いに寄り添いながら、コロナ禍後の生活様式を取り入れ、「皆で工夫していく」「生活をつくっていく」「自助共助」ということを考えさせていく。これまで続けてきた「いのちを考える日」を引き継ぎ、いのち、絆、減災、防災等、震災やコロナ禍で学び、経験した数々のことを振り返り、学び、考え、そして思う、祈る日とした取り組みを実践している。

- (1) 絵本の読み聞かせ
- (2) 全校道徳の実践
- (3) 雪灯籠設置

「いのち」の教育実践事例

☆新庄市の実践（新庄市立新庄中学校）

生命の継承の
大切さに
関する教育

—「いのちの日」を通じた世代に生命を継承することの大切さを考えさせる心の教育—
「いのち」に関連した授業や取り組みを通じて、生徒が「いのち」について深く考える取り組みを行っています。その実践の一部を紹介します。

○「いのちの日」の実践

いのちのこと、社会全体が互いに寄り添いながら、コロナ禍後の生活様式を取り入れ、「皆で工夫していく」「生活をつくっていく」「自助共助」ということを考えさせていく。これまで続けてきた「いのちを考える日」を引き継ぎ、いのち、絆、減災、防災等、震災やコロナ禍で学び、経験した数々のことを振り返り、学び、考え、そして思う、祈る日とした取り組み。

(1) 読み聞かせ…8:10～ 朝読書
・朝読書の時間に、担任の先生方を中心に各学級で震災に関する絵本の読み聞かせを行った。実際の映像と真なり、絵本を活用することで、読み手の思い以上に、生徒が絵本の思いを膨らませ、震災について深く考えることができた。

(2) 道徳の実践…13:30～ 5 時間目
「いのち」「絆」「助け合い」「減災」「自助共助」等を主題とした道徳の授業を実践した。ほとんどの生徒は震災の記憶がないので、映像資料を使い、授業者が当時のことを振り返り、伝える時間を設定している。特に、何を語ればよいのかを教師自身が問い返し、あの日、あの時に感じたことを、強い思いをもって伝えていく。
※授業を通して感じたこと、思ったことを記入し道徳ファイルに保存する。2、3年生は昨年度記入した感想や思いを読み返し道徳のファイルを保存している。

(3) 雪灯籠設置…15:30～ 放課後
・生徒会執行部やJRC委員会を中心に、ボランティアを募り、雪灯籠を制作し設置し、思いを馳せることができた。

前の読み聞かせの様子
生徒は真剣に絵本に没入の姿があった。



道徳の様子
道徳項目「生命の継承」を中心に授業を展開している。



展示物も震災に触れる内容に変更!



震災に思いを馳せ、雪灯籠を制作している。夕刻に火をともしることによって幻想的な風景となり、地域にも、新庄中の取り組みを周知している。

